

医療情報部のトピックス

医療情報部診療部長 伊藤 浩司
Ito Koji

まず、医療情報部について簡単に説明させていただきます。医療情報部は、2000年に設置された診療協力部門の一つです。診療に直接かかわる部門ではありませんが、「電子カルテをはじめとする病院情報システムの導入・維持・管理」、「診療録管理」、「図書室の管理運営」、「がん登録」と幅広い業務を担当している部門です。

各業務の具体的な内容は診療案内誌をご覧ください。今回は医療情報部のトピックスとして最近の話題について少し触れたいと思います。

医療情報部の最近の話題は、電子カルテシステムの更新であります。2009年の現在のNEC社製電子カルテシステムを導入して8年が経過し、ハード面、ソフト面ともに老朽化してきております。独立行政法人化に伴う諸事情により、当初の予定よりも大幅に遅れましたが、今年の春ようやくNEC社製システムでの更新を行うことが決定いたしました。現在、来年1月のシステム更新に向けて鋭意準備を進めているところです。

十数年前、私がまだ研修医であったころは、まだ紙カルテ時代でしたので、①指導医や時々自分が書いた記事ですら、その文字の難解さのため判読するのに相当な時間をかける必要があったり、②入院カルテを見るには病棟まで足を運ぶ必要があり、運悪く病棟に行っても、他のスタッフがカルテ記載中であれば記載終了を待つ必要があったり、③外来カルテもカルテ庫に保管されているため、急患が来た場

合はまず走ってカルテ庫にカルテを取りに行く必要があったり、④毎週の入院患者定期処方日は何枚もの処方箋を手書きする必要があったり、（字が汚いと看護師さんに怒られながら）、⑤放射線画像フィルムも、急ぐ場合は放射線部に取りに行く必要があったり、⑥紙で帰ってきた検査結果もカルテに切り貼る必要があったり、⑥体温板もすべて手書きする必要があったり（教授回診用カンペとして様々な情報を書き込む必要もあり）等々、今の電子カルテ時代からすると、「そんな～時代もあったねと～」と隔世の感があります。電子カルテシステムは、以上のような作業から医療スタッフを解放するという大きなメリットもあり（もちろん、医療安全への貢献や地域連携への貢献などもあり）、多くの病院にとって、電子カルテシステムを一度導入すると、「もうやめられないもの」になっていると思います。しかし、大きな問題は、長持ちしないことです。電子カルテで使用する端末やサーバーのOSが次々新しくなり、古いOSはあっという間にサポート切れとなってしまいます。サポート切れOSはセキュリティ上脆弱ですので、定期的にシステム更新を行う必要が生じます。正直、病院にとっては、手間と費用の面からは全く厄介ですが、やめられないものですので、今後はデータ2次活用といった形でシステムの付加価値を高めて、地域医療にも資する情報提供などにも取り組んでいきたいと考えています。